

茨城県立こども病院を受診された方へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

研究課題名	頭蓋咽頭腫の病態解明と新規治療開発に向けたゲノム変異と蛋白遺伝子発現の統合的探索
当院の研究責任者	小児血液腫瘍科 加藤啓輔
他研究機関および各施設の研究責任者	茨城県立こども病院総合診療科、小林千恵 茨城県立こども病院小児血液腫瘍科、吉見愛 茨城県立こども病院小児脳神経外科、田村剛一郎、稲垣隆介 茨城県立こども病院病理科、大谷明夫 埼玉県立小児医療センター病理診断科、中澤温子、岸本宏志 埼玉医科大学国際医療センター脳神経外科、西川亮 国立成育医療研究センター病理診断部、義岡孝子 神奈川県立こども医療センター病理診断科、田中水緒、田中祐吉
本研究の目的	予後の改善や晩期合併症の低減をもたらす新規治療法の開発を進めるために、頭蓋咽頭腫のエナメル上腭腫型の病態の解明を目的とする。特に whorl-like array の形成と、細胞増殖活性、βカテニンの発現、SOX2 や SOX9 の発現、プロゲステロン受容体やエストロゲン受容体の発現、プロテアソーム関係タンパク質の発現、ABO 血液型抗原との関係を明らかにする。また次世代シーケンサーを用いて Wnt シグナルに参与していない遺伝子の変異を明らかにし、加えて頭蓋咽頭腫組織で強く発現している新たな遺伝子を同定する。
該当期間・対象者	IRB で承認後、5 年間 当院ならびに共同研究機関で治療を受け、病理組織学的に頭蓋咽頭腫エナメル上皮腫型と診断され、病理組織学的検体が得られた、発症時 18 歳未満の症例を対象とする。
研究の方法	(1)頭蓋咽頭腫の組織学的探索 当院の症例の組織切片と共同研究者施設の症例の組織切片を通常の方法に従った免疫組織学手法を用いて検索し蛋白の発現と組織学的な構造、whorl-like array、palisading cell、stellate cell と Wnt シグナル

	<p>活性化との関連を検討する。</p> <p>Wnt シグナル関連たんぱく質、β カテニン、MYC、LEF-1</p> <p>幹細胞関連たんぱく質 SOX2、SOX9、CD44、S-100 β</p> <p>増殖関連抗原 MIB-1</p> <p>性ホルモン受容体プロゲステロン受容体、エストロゲン受容体 α、エストロゲン受容体 β</p> <p>ABO 血液型抗原、A 型抗原、B 型抗原、UEA-I レクチン反応抗原</p> <p>プロテアソーム関連たんぱく質、Gankyrin</p> <p>Wnt シグナル制御性転写因子 JNK-1、Nrf2、</p> <p>(2) 遺伝子発現解析</p> <p>凍結検体ならびにホルマリン固定検体から核酸を抽出し、逆転写酵素により cDNA を合成する。次世代シーケンズでトランスクリプトーム解析を行う。腫瘍組織で高発現しているたんぱく質を同定する。</p> <p>(3) 遺伝子解析</p> <p>次世代シーケンサーを用いたターゲットシーケンズもしくは全エクソーム解析を行う。凍結検体ならびにホルマリン固定検体から核酸を抽出し、がん遺伝子のターゲットシーケンズもしくは全エクソン解析を行い、新たな遺伝子の変異を同定する。この際、新たに採取された末梢血液検体から抽出された核酸を正常対象とする。</p> <p>解析施設は、当院ならびに共同研究機関である。</p> <p>(4) 解析データと臨床データとの相関の検討</p> <p>得られた遺伝子変異と臨床データ、年齢、性別、発症時年齢、原発部位、進展部位、切除方法を含む治療法、切除の程度、予後との関連を検討する。生存分析は Kaplan-Meier 法を用いる。</p>
他機関への情報提供	ホームページ等で周知を図る。
個人情報の取り扱い	匿名化により個人情報を保護する。臨床データはパスワードの設定してある電子カルテのサーバーに保存する。
利益相反	利益相反はない。
問い合わせ先	<p>茨城県立こども病院小児血液腫瘍科</p> <p>加藤啓輔</p> <p>TEL029-254-1151</p>
備考	